

## 令和7年産水稻の作柄概況

令和7年11月25日  
神奈川県農業技術センター

### 1 育苗期

育苗期の平均気温は平年並みからやや高く推移した。日照時間は平年より少なく、一部で徒長が見られたが概ね順調に生育した。

### 2 生育初期（移植期から分けつ期前半）

移植時期の平均気温は平年と比較して、5月下旬は低く、6月上旬は平年並み、6月中旬以降は高温で推移した。

生育状況は平年と比較して、草丈は長く、茎数は多く、葉色は同等であった。

### 3 生育中期（分けつ期後半から出穂期前）

7月上旬から下旬にかけて、平年よりも気温が高い日が続き、降水量は平年よりも少なかった。このため、一部地域では中干し後の入水が遅れるなど渇水の影響が見られた。

生育状況は平年と比較して、草丈は同等から長い、茎数は同等から多い、葉色は同等から薄い傾向であった。

### 4 出穂期

7月上旬以降の気温は平年と比べて高く、日照時間は平年と比べて長かった。出穂は平年よりも4から5日早まった。

### 5 成熟期

登熟期の気温が平年よりも高く、登熟日数が1から3日短縮し、成熟期は平年に比べ5から8日早まった。収穫適期は平年に比べ大幅に早まったが、収穫作業は平年よりやや早まったものの大きさは変わらず、全体的に刈り遅れの傾向であった。

生育状況は平年と比較して、稈長は同等から長い、穂長は同等からやや長い、穂数は同等から多い傾向であった。また、9月5日の風雨の影響もあって、一部で倒伏が見られた。

### 6 収量等

玄米重（収量）は平年に比較し総じて多くなったが、収量構成要素（一穂粒数、穂数、登熟歩合、千粒重）は田植時期や品種による差がみられた。

6月上旬植えでは品種間差は少なく一穂粒数と穂数が多い傾向で、総粒数は多くなった。登熟歩合も高い傾向で、玄米重（収量）は同等から多くなった。

6月中旬植えでは品種間差が見られ‘はるみ’では一穂粒数がやや少ないものの穂数が多く、総粒数は多くなり登熟歩合も高かったため玄米重（収量）は多くなった。

‘キヌヒカリ’は一穂粒数が少なく、総粒数は少なくなったが登熟歩合が高かったため玄米重（収量）は多くなった。‘てんこもり’も一穂粒数は少なかったが、穂数は多く、総粒数が多くなり、千粒重はやや軽くなったものの玄米重（収量）は多くなった。

## 7 玄米品質

出穂期以降の高温の影響で、白未熟粒の発生が多くなった。また、斑点米カメムシ類による斑点米、刈り遅れ等による胴割米、着色米も見られたことから、品質は著しく低下した。

## 8 病害虫、雑草の発生

病害は紋枯病の発生が見られ一部で倒伏が助長された。

8月10日から12日にかけてやや強い風と降雨があり、内穎褐変病等による穂の褐変が各地で目立った。

害虫は斑点米カメムシ類の発生が例年に比べて多く、被害が各地で見られた。スクミリンゴガイは大型の越冬個体が目立った。一部の水田で部分的な被害が見られた。

雑草は活着期から分けつ期に藻類が、中干し以降はヒエ類、ツユクサ、イボクサ、ホタルイ、オモダカ、クログワイの発生が目立った。ナガエツルノゲイトウについては昨年よりも発生ほ場が増加した。

## 9 作柄概況（神奈川県農業技術センター（平塚市）における成熟期並びに収量等について）

本年の成熟期並びに収量等の状況は、平年値（2015から2024年までの過去10年平均）と比べて、下記の表のとおりであった。

表1 成熟期の生育状況（平年対比）

品種	移植時期	稈長	穂長	穂数
はるみ	6月上旬	同等	同等	やや多い
	6月中旬	やや長い	同等	多い
キヌヒカリ	6月上旬	同等	やや長い	やや多い
	6月中旬	長い	同等	同等
てんこもり	6月上旬	長い	やや長い	やや多い
	6月中旬	同等	同等	多い

表2 収量等の状況（平年対比）

品種	移植時期	玄米重	屑米重	千粒重	一穂粒数	登熟歩合
はるみ	6月上旬	同等	少ない	同等	同等	やや高い
	6月中旬	多い	少ない	同等	やや少ない	高い
キヌヒカリ	6月上旬	多い	少ない	同等	同等	同等
	6月中旬	多い	少ない	同等	少ない	高い
てんこもり	6月上旬	多い	多い	同等	多い	高い
	6月中旬	多い	やや少ない	やや軽い	少ない	同等

注：平年とは過去10年（2015から2024年）の平均。ただし、てんこもりは2018から2024年までの過去7年平均である。

問合せ先  
農業技術センター普及指導部作物加工課  
TEL：0463-58-0333 内線381～384